

令和5年度豊かな森を育てる府民税
事業成果及び評価結果

令和6年10月
京都府農林水産部林業振興課

目次

1. 令和5年度豊かな森を育てる府民税評価結果	2
2. 令和5年度豊かな森を育てる府民税事業成果	6
I 森林の整備及び保全	8
1 森林防災機能強化事業費	8
(1)地域とつくる安心・安全な森整備事業	8
(2)流木等流出防止対策事業	8
(3)山地災害防止対策事業	8
(4)京の木づかい施設整備事業	8
2 豊かな森づくり総合対策事業費	12
(1)次世代につなぐ森づくり事業	12
(2)ふるさとの里山林保全活動推進事業	12
(3)京の森林文化を守り育てる支援事業	12
(4)豊かな森の恵み創造事業	12
II 森林資源の循環利用	17
1 ひろがる京の木整備事業	17
III 森林の重要性の啓発	19
1 豊かな森林継承事業	19
IV 地域振興計画推進事業費	21
V 豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業	25

1 令和5年度豊かな森を育てる府民税評価結果

京都府農林水産部林業振興課

京都府では、災害防止など森林の持つ多面的機能を維持するため、平成28年度から「京都府豊かな森を育てる府民税」(以下、府民税)を導入しており、第2期となる令和3年度からは、毎年度、事業の進捗や効果を評価・検証することとしました。

この度、令和5年度の府民税事業についての評価にあたり、有識者会議を開催し、「府の事業評価の妥当性、改善点や要望、今後の展開」などについて意見をいただきました。

【有識者会議の評価結果について】

(1) 総括的な評価

<事業全体に対して>

- ・各事業について、地域ニーズに応じて実施されており、到達目標も概ね達成していることから、府の自己評価は妥当であり、森林環境譲与税との役割分担を明確にしなが、今後も継続的に実施されたい

<各事業に対して>

- ・防災・減災対策については、事業メニューの拡充など、きめ細やかな対応ができており、非常に効果的
- ・山地災害危険地区の整備については、単年度の目標は達成できているが、今後は、防災対策をより重点的に進めていく上で、府民税事業で実施すべき箇所やその整備内容について検討していくことが必要
- ・森林整備を促進するためには、目指そうとする森づくりのビジョンを持った上で、森林環境譲与税との役割分担を行い、府民税の効果的な活用につなげる必要
- ・木材利用の普及啓発イベントの参加者に対して、ひろがる京の木整備事業の周知を図るなど、実際木材利用へと繋げていく取組が効果的
- ・森林環境税の徴収が開始されたことから、今後、府民税が担う役割(両税の役割分担)について、分かりやすい資料を作成した上で、情報発信していくことが必要

(2) 府による事業評価と分野別の主な意見

【Ⅰ 森林の整備及び保全】

事業評価	有識者会議の主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 府民税事業費の6割を防災・減災対策に活用して、流木等の原因となる危険木を集中的に撤去するとともに、風倒木跡地の整理・植栽等を行い、森林の防災機能の向上に繋げることができた。 ○ 令和5年8月台風第7号災害への応急対応として補正予算を組み、崩壊地の危険木撤去等、災害復旧・予防対策を早急に実施することができた。 ○ 地域住民による人家近くの危険木の現地調査や撤去の計画・実行を支援すると共に、防災意識の向上を図った。 ○ 再造林面積と、苗木生産者による花粉症対策苗木の生産量は昨年度より増加するなど、植栽等への支援の効果は一定認められるが、目標値には届いておらず、さらなる促進が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公共事業が採択されない箇所での実施であり、効果が高く、自己評価も妥当 ○ 災害で発生した支障木は、積極的に搬出・利用いただきたい ○ 未整備の箇所も依然としてあるので、継続的な事業実施が必要 ○ 災害跡地の植栽樹種は、目標とする森林を見据えて選定することが重要 ○ 整備箇所数だけではなく、モニタリングによる追跡調査を行い、質的な評価をすることも重要 ○ 府民税事業の目標を設定して、事業メニューの検討を行うことが必要 ○ 主伐・再造林を進めるには、根本の課題である境界明確化の推進を行うことが必要 ○ 森林整備事業を一層進めていくためには、府が市町村を積極的に支援していくことが重要 ○ 森林整備を促進するためには、目指そうとする森づくりのビジョンを持った上で、森林環境譲与税との役割分担を行い、府民税の効果的な活用につなげる必要がある ○ 京都府としての森林整備の指針をしっかりと示していき、施策もそれに従って取り組むことが必要

【Ⅱ 森林資源の循環利用】

事業評価	有識者会議の主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 住宅・民間施設等の木造・木質化、府民が利用する施設への木製品の導入、新たな木製品の開発に対する支援に併せてパンフレットやHPによる広報、府内産木材に係る需給体制等の情報収集、制度説明会の開催などを積極的に行うことで、木材利用の取組件数が増加し、府民が京都の木を身近に感じる機会の創出や、新たな用途開発に繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的に進めていただきたい

【Ⅲ 森林の重要性の啓発】

事業評価	有識者会議の主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林環境学習や木材を活用したワークショップを開催するとともに、商業施設への展示なども活用し、啓発活動を行うことができた。 ○ 関係機関とも連携し、イベントのPR等について、WEBサイトやSNS等を活用した広報を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ たくさんの参加者がおり、非常に評価できる ○ 木材利用の普及啓発イベントの参加者に対して、ひろがる京の木整備事業の周知を図るなど、実際の木材利用へと繋げていく取組が効果的

【IV 広域振興局枠】

事業評価	有識者会議の主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 振興局が地域の特色や地域住民のニーズに応じ、森林保全や木材利用等の啓発を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ イベントの参加者からは高い評価をもらっており、このまま続けることが妥当

【V 市町村交付金】

事業評価	有識者会議の主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 主に防災・減災対策に活用し、地域のニーズに応じた森林整備等の対策に対応した。 ○ 里山及び放置竹林における森林整備や保全活動に活用し地域の要望に対応できた。 ○ 木質化・木育、森林環境学習による普及啓発など、地域課題に応じた取組を促進できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門職員が非常に少ない、または不在で実行体制が充分でない市町村へは、府が積極的にサポートしていくことが必要

(3) 指標と目標達成率

使途分野	指標	R5年度 実績値/目標値	R5年度 達成率	R5年度までの実績値 /5年間(R3-R7)の目標値
I 森林の整備及び 保全	1-①山地災害危険地区の整備	46箇所/20箇所	230%	117箇所/100箇所
	1-②溪流における災害の未然防止	49箇所/20箇所	245%	128箇所/100箇所 ※内、山地災害危険地区(100箇所)
	1-③災害防止のための森林整備	298ha/200ha	149%	664ha/1000ha ※効果が発揮される流域面積
	2-①再造林への補助実績	52ha/88ha ※	59%	162ha/445ha ※内、府民税実績(30ha)
	2-②花粉症対策苗木の生産量	5.4万本/6.5万本	83%	8.1万本/31.5万本 ※R4年度から苗木生産を開始
	2-③里山林の整備	54箇所/60箇所	90%	169箇所/300箇所
	2-④里山学習の実施			3箇所(3箇所) ※()はR4実績
	2-⑤地域文化と関わる社寺の森等の整備	32箇所/30箇所	107%	122箇所/150箇所
II 資源の循環利用	①府民が京都の木を身近に感じる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●建物型 住宅タイプ 162件 1,697㎡ (150件 1,822㎡) 非住宅タイプ 13件 213㎡ (6件 143㎡) 優良事例表彰・パンフレット・HP作成など ●木製品型 導入支援タイプ 55件 (35件) 開発支援タイプ 5件 (7件)件 		※()はR4実績
III 森林の重要性の啓発	①森林の多様な機能についての府民理解の促進(イベント参加者)	712人/600人	119%	1,742人/3000人

【参考 有識者会議について】

(1) 有識者会議の開催 令和6年8月7日

・令和6年8月7日 令和5年度事業実績と評価

(2) 有識者会議のメンバー

氏名	分野	役職等
あいこう まさとし 愛甲 政利	木材利用	(一社)京都府木材組合連合会副会長
くりやま こういち 栗山 浩一	学識経験者 (環境経済)	京都大学大学院農学研究科教授 (座長)
しのべ ゆきお 篠部 幸雄	府民協働	京都森林インストラクター会 会長
ながしま けいこ 長島 啓子	学識経験者 (森林計画)	京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授
みよし いわお 三好 岩生	学識経験者 (防災関係)	京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授
もりい かずひこ 森井 一彦	森林組合	京都府森林組合連合会代表理事専務

(五十音順・敬称略)

2 令和5年度豊かな森を育てる府民税 事業成果

分野	事業名等	指標
I 森林の整備 及び保全	1 森林防災機能強化事業費	①山地災害危険地区の整備 ②溪流における災害の未然防止 ③災害防止のための森林整備
	(1) 地域とつくる安心・安全な森林整備事業	
	(2) 流木等流出防止対策事業	
	(3) 山地災害防止対策事業	
	(4) 京の木づかい施設整備事業	
	森林防災機能強化事業費 (R5年台風7号被害)	
I 森林の整備 及び保全	2 豊かな森づくり総合対策事業費	①再造林への補助実績 ②花粉症対策苗木の生産量 ③里山林整備 ④里山学習の実施 ⑤地域文化と関わる社寺の森等の整備
	(1) 次世代につなぐ森づくり事業	
	(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業	
	(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業	
	(4) 豊かな森の恵み創造事業	
II 森林資源の 循環利用	ひろがる京の木整備事業	—
III 森林の 重要性の啓発	豊かな森林継承事業	森林の多様な機能についての府民理解の促進
IV	地域振興計画推進事業費	—
V	豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業	—
	実績写真	

【事業実績額内訳】

分野	事業名等	実績額（千円）
I 森林の整備及び保全	1 森林防災機能強化事業費 （当初予算）	343,000
	(1) 地域とつくる安心・安全な森林整備事業	17,279
	(2) 流木等流出防止対策事業	84,321
	(3) 山地災害防止対策事業	125,000
	(4) 京の木づかい施設整備事業	116,300
	森林防災機能強化事業費 （R5年台風7号被害）	100,000
	2 豊かな森づくり総合対策事業費	97,679
	(1) 次世代につなぐ森づくり事業	30,974
	(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業	27,420
	(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業	29,999
(4) 豊かな森の恵み創造事業	9,286	
計		540,681
II 森林資源の循環利用	ひろがる京の木整備事業	96,479
III 森林の重要性の啓発	豊かな森林継承事業	20,712
IV 広域振興局枠	地域振興計画推進事業費	9,850
V 市町村交付金	豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業	199,987
計（当初予算額798,993千円）		867,709

※端数処理の関係で各事業の実績額の計と合計が一致しない場合があります

※本実績額は、事務費等を含むため、各事業ページの事業成果の事業費とは一致しません